

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 7 月 20 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491700161		
法人名	有限会社アドバンス		
事業所名	ここから		
所在地	広島県府中市鶴飼町680-1		
	電話番号	0847-54-2235	
自己評価作成日	令和 3年 4月 24日	評価結果市町村受理日	令和 3年 10月 5日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 3 年 7 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・施設での生活を、職員が主体となって取り仕切るのではなく、利用者様が主体となれるようにしている。例えば料理に関しては、利用者様が考えながら切り、味付けし、盛り付け、お出ししており、職員は必要な食材と道具をそろえる程度のお手伝いをしている。</p> <p>・洗濯物、洗い物、掃除なども利用者様が職員と一緒に出来るよう、日々の関係性作りに気を付けている。</p> <p>・利用者様が「やりたい」と言われたことは、すぐにでも出来るよう、必要関係者への連絡調整を行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>周辺には、警察、府中市民病院、薬局、税務署等の公共施設があり、利便性が良い。同法人の介護付有料老人ホーム、居宅介護支援事業所が隣接されていて、協力関係や利用者同士の交流もできる。玄関前にはお庭があり、素敵な作りで楽しむことができる。又、玄関、廊下、リビング等の共有空間はとても広く、天井も吹き抜けで明るく圧迫感もなく照明器具、空調設備等あらゆる面に工夫がされている。利用者も気持ち良く穏やかに過ごせる共有の場となっている。ケア面は事業所独自の理念、目標は利用者に対し、「生ききろう、十人十色の生き方をここで実現し、わがままでいい、思いどなりに自分らしく」という事を掲げ、実現出来る様、全職員が共有し日々支援されている。また、食事づくり等、利用者が主体となり、献立から調理、盛り付け等全てされ、力量発揮の場面作りで、張りのある生活に繋がれていると共に出来る事はしてもらい、今までの生活歴を活かす支援を心掛けている。家族の訪問もコロナ禍のため制限があり、写真付きのホーム便りを送付したり、電話で日頃の様子や本人の依頼、声なども伝え現状把握してもらおう事と家族との絆を大切にしている。医療面も充実し、隣接されている施設に看護師職員がいるので、健康面の相談もできる体制であり、安心である。地域との関わりも近隣の方の協力も得られ、梅狩り等させてもらったり、野菜を頂いたり、又、室内に地域との交流の場があり、地域の方々との繋がりを深め、地域貢献、地域資源の活用に努めると共に特に大切にされている事は利用者主体で動くと言う事を全職員が共有し支援され利用者が活き活きと過ごせる環境作りに取り組まれている事である。期待したい。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社全体の理念と、事業所の思いを職員間で共有し、実践している。	企業理念は基より、独自の理念「生ききろう、十人十色の生き方でいい、自分らしく生きて欲しい」、という職員の思いを共有し、日々実践に繋げている。理念の冊子を全職員は持たれ、ミーティング等で復唱もされ、振り返る機会としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でも、感染対策をした上で可能な範囲でお出かけしている。(散髪、花見、タケノコ掘りなど)また、コロナが落ち着けば、食材や消耗品の買い物や、馴染みのある事柄(知人へ訪問、地域のお祭り)にも参加していきたい。	地域行事等も中止が多く、交流はできていないが、近隣の畑の梅狩りをさせてもらったり、収穫された野菜を持ってきて下さるなど、少しずつ交流ができています。今後は事業所内の交流の場所を地域に開放し、使用してもらう中で、利用者との関係づくりに取り組まれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、利用者様に関わっている方(家族、親族、友人)には、利用者様本人の想いを伝えた上で、どのように関わるべきかを共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は予定されていたが、コロナの影響が強くなった為、中止された。今後は様子を見て開催する予定。	コロナ禍の為、開設時から運営推進会議が実施出来ない。今後、開催できる状況になった場合には家族、町内の各役員の方や近隣の方、行政、包括職員との参加が得られる様取り組み、立場の違う方々の意見等を得ながらサービスに活かしていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の連絡調整、事故報告書の提出など連絡を取っている。	疑問や問題点がある場合は相談し、助言等を得ている。又、報告しなければいけない案件がある時などに取り組みや現状について伝え、協力関係を築く様取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が研修を通じて個々の反省点を提出し、改善するよう取り組んでいる。	基本身体拘束はしない方針である。玄関の施錠含め身体拘束はしていない。リスクに対しては要因を共有し、見守り重視で対応し抑圧しない支援を心掛けている。不穏で出られる方には声かけをしながら一緒に出かけ気分転換を図り、制止しないケアに取り組んでいる。オンラインで研修もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止研修に参加し、報告書を提出するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護技術勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で行っていく。来所時にお話をした際に頂いた意見は、職員間で共有している。	コロナ禍の為、家族の訪問ができない状況なので、写真つきのホーム便りを送付し現状を理解してもらっている。又、電話で本人の声を届けると共に日々の暮しぶりも細かく報告し、その中で意見や要望等の把握に努めている。色んな場面での意見や要望は個々に対応すると共に運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から行っている。また月一回のミーティングも開催している。	朝の申し送り時やミーティング等で聞く機会を持ち、どんな些細なことでも言える様な環境づくりをし、多くの意見や提案を聴取し運営に反映させている。又、日頃気付きがあればその都度聞くように努めている。検討すべき案件の場合はミーティングで検討している。メンタル面に関してはその時の表情から判断し面談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術勉強会、その他研修への参加、業務内で先輩職員からの指導を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間でどのような事を行っているのかを発表している。また、研修や勉強会に参加することで、自然とその場にいる他施設の職員とも話をする機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の時から、家族や本人の想いを聞くよう努めている。入所後は、主に本人の望むものは何かをしっかりと把握することで、ケアの向上に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の時から入居予定の方の様子や話を聞くことで、入居後のイメージをお伝えしている。実際はサービスを開始してから気づくことの方が多い為、その都度ケアの方向性を修正している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様としてではなく、第二の家族のような関係になれるように努めている。また概ね築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の想いを共有する上で、本人の望む生活はどうなのかを都度話すようにしている。その中で協力関係になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策を行なったうえで、馴染みの場所や人へは会えるようにしている。	感染予防を徹底し、希望で自宅に帰りたいと言われる方には家族の協力を得て帰ってもらっている。また、隣接の施設に入所されている馴染みの方に会いに行かれる等、出来る範囲で馴染みの人、馴染みの場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の支えあいが見られるときは、職員が過度に介入しないよう見守っている。また、場合によっては職員が介入することで、利用者間の関係を作るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた後の家族様とも行事事で関わっている。また地域で会った際にはお話をする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	概ねできている。	生活歴や日々の会話から、把握している。どんな些細なことにも、耳を傾け、検討し出来るだけ思いに沿うように努めている。自分から発せられる方もいる。表出困難な方には声かけをし、その時の表情から汲み取ると共に家族の協力も得、本人本位に検討し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の事で分かった事、思った事は職員間で共有し、ケアに反映するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の事で大切なことは家族と連携し、実践に努めている。また、ケアの方向性については職員間で共有できるようなシステムを採用している。また、今後ケアプランに反映していく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SCOPというソフトや、スプレッドシートというシステムを使用し、情報共有をしている。また日々の申し送りの中で改善点は話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の思いを第一に出来る事はすぐ実践するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	概ねできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実践できている。	協力医療機関の往診が週1回、歯科は訪問歯科で対応している。本人、家族の希望の医療機関に対しては、通院は家族対応となっているが、家族の要望があれば柔軟に通院支援している。結果については適宜報告されている。また、隣接の施設に看護師の職員がいて、いつでも相談できる為、安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実践できている。(日々の様子をしっかりと把握するよう努め、違和感があつた際には直ぐに対応できるようにしている。)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の意思を最優先にしながら、退院できる方は早めに退院できるよう、病院との連携をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	利用開始時、指針を基に説明し、理解が得られているが、状況変化が起きた場合は主治医から家族に説明され、主治医、家族、事業所職員等で密に話し合い、その都度状況を説明し、家族の意向の確認を行いながら方針を共有しチームで支援に取り組まれている。協力医の連携も構築されている。隣接の施設の常勤看護師の協力も得られる体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、夜間帯でもリーダーもしくはサブリーダーに連絡を取れるようにしている。また、契約時に緊急時の本人家族の意向についてを確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。	年2回、隣接の同法人の施設と合同で、通報、消火、避難誘導等の訓練を実施し、実践力を身につけると共に居室避難確認はドアを閉めると言う事を周知している。また、避難場所の確認もしている。現状では地域への発信は出来ないが、今後コロナ禍が終息すれば会議でお願いし、協力体制強化に努める。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。	人生の先輩であり、個々を尊重した対応と生活歴に合わせた声かけをされ、馴れ合いになっても節度ある対応に心掛け、職員間で気づいた時には注意し合っている。排泄時や入浴時、また、居室訪問時にも許可を得て入室し、プライバシーの確保に努めている。研修も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が全て行うのではなく、本人が選択できるように声掛け、支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者様の声に耳を傾けるようにしており、気づいたことは職員間で情報共有するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、服を選んでもらうようにしている。またこだわりがある方は、家族と連携を取り、こだわりに添えるようにしている。(例:カツラ、時計)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決める段階から、利用者様と一緒に考え、作成についても利用者様主体で作っている。食器の片付け、テーブルの掃除なども利用者様主体で概ね行っている。	献立から下ごしらえ、味付けなど、全て利用者主体で作られ職員は見守りをしながら、補助的にし、会話を楽しみながらされている。盛り付けや後かたづけも皆さんでされ、労いの言葉もかけられ、張りのある生活に繋がっている。殆ど方が普通食であり、職員と共に愉しく食されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できている。水分をあまり飲まれない方には、飲みやすいものは何かを考え提供させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っている。また排泄のシグナルだと思われれる表情・行動・仕草など気づいたことは職員間で共有している。	個々の時間帯とその時々表情、行動から把握し、日中はトイレでの排泄に努められ、機能維持、生活習慣を活かした支援をしている。自立の方もいる。また、布パンツ使用を基本とし、職員間で共有し自立に向けた支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、食事で便秘にならないように努めているが、どうしても排便が出ない時は主治医と連携し、便秘薬を飲んで頂く機会もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を機械的に行うのではなく、利用者様と話す上で入りたいタイミングを決定している。	週2回は最低の目標であり、希望を優先し毎日でも可能であり、時間帯も決めずその時の状況や希望の時間帯で柔軟に入浴してもらっている。夜入られる方もいる。午後12時から9時まで対応できる体制となっている。拒否の方にはタイミングや声かけの工夫をし、週2回は入浴してもらい、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際には、その後の変化を報告しあい、不要だと思われる薬(たとえば施設、病院都合の睡眠薬)に関しては医師に相談し無くしていくようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内で出来る仕事を職員だけで行うのではなく、利用者様にも役割としていただいている。またお酒やタバコが好きな方など、嗜好品がある方は、家族の理解を得た上で本人の欲するタイミングでお出ししている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的に、本人様が行きたいと思ったところへは、コロナ対策をした上でなるべく素早く行けるようにしている。	コロナ感染予防の為、希望どうりには出かけられないが、ドライブで藤の花を見に行かれたり、近隣やお庭を散歩する等、外気に触れる機会と気晴らしの支援に努めている。また、近隣の畑の梅狩りをさせてもらい楽しんでもらっている。今後、少しでもコロナ禍が終息すれば、利用者の行きたい所へ出かけられる様支援したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持ちたい方はご自身で持って頂いている。ご自身で管理されていない方は、欲しいものを言って頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えるようにしている。また家族への連絡を頻繁にされる方に関しては、本人の想いを把握したうえで家族へ伝え、家族に協力を仰いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の表情や声に意識し、居心地がよく過ごせるように工夫している。	玄関、共有の廊下やリビング等とても広く、ところどころにテーブルや椅子があり、飾り棚には書物も置かれている。又、ウッドデッキもあり、色々な場所で自由に過ごす事ができる。地域の方へ自由に使用してもらえるように交流の場も設置されている。天井も高く照明器具も工夫され空調関係も整い、死角もなく、不快な匂いもなく、トイレも6ヶ所有り。観葉植物も置かれ、清潔で気持ち良く過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎回同じ場所、同じ形にならないよう、いろいろな方と過ごせるように机の配置や向きを工夫している。また、気の合う方同士は一緒にいられるようにすることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で大切にしていた物を持ち込めるようにしている。	各居室には洗面台が設置されている。家具やテレビ、家族との思い出の写真等が持ち込まれ、自宅に近い環境づくりをされ、違和感なく落ちついて過ごせるよう工夫されている。カレンダーや時計も置かれ時の認識に繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が全てを手伝うのではなく、本人のできることを自分でしてもらえるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2/3くらいの				②家族の2/3くらいと
			③利用者の1/3くらいの				③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しづつ増えている
			③利用者の1/3くらいが			○	③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている	○	①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホームここから

目標達成計画

作成日: 令和 3 年 10 月 5 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		利用者様が座っている事が多い。	利用者様一人ひとりが、主体となって生活している場にしていく。(積極的に活動できる環境づくり)。	スタッフ一人ひとりがそれぞれの担当利用者さまの趣味、得意な事を知り、それを実践していく。	3ヶ月
2		利用者様それぞれの居場所が無い。	東ホールや多目的ホールも利用し、好きな居場所を作る。	スタッフのスキルアップが必須。(使う場が増えると、スタッフもバラける為)、その為に日々のスタッフの動きをしっかりと観察し、必要に応じて指導していく。	6ヶ月
3		利用者様の目標や夢に向けてスタッフの取り組みが不足している。	今よりもっと、利用者様、職員共にやりたいと思った事が直ぐにできるようにする。	スタッフ間での遠慮が無くなると、やりやすい。その為、コミュニケーションがとれるように場を設ける。	1~3ヶ月
4		スタッフが自身のよい所を現場内で活かしきれてない。	スタッフ一人ひとりが、自分の長所を知る。	振り返りをする中で、一緒に見つけていく。	2ヶ月
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。